

小規模自治体資料館での史料保存

めぐみ
高村 恵美

私の勤務する常陸大宮市は、茨城県北西の山間部にあり、平成の大合併のさなかの平成16年10月に5町村が合併して誕生した市です。面積は県下2位、人口は4万6000人ほどです。合併に伴う異動で、2年半勤めた総務課から、この市の歴史民俗資料館に配属になりました。大学で日本近世史を専攻し、地方文書の整理や解読に日々を過ごしてきた私には願ってもない異動でした。とはいっても配属先の資料館には学芸員の配置はなく、実質的に資格を持っていて学芸の仕事をしてはいても、身分は一般行政職で、当然異動もあります。

他の多くの自治体と同様、当市でも歴史民俗資料館は職員が少ないため、業務範囲がとにかく広いのです。考古から民俗、自然科学の分野まで、特別展示や報告書作成のための調査、講座、市民や学校現場への教育普及など、文化財の保護にかかわることならば何でも対応します。学芸担当職員(2名)である程度分担し、無理なものは専門家に依頼する、という形でなんとか対応しています。「古文書にかかわる仕事ができる」と喜んだのもつかの間、古文書に触れられる時間はほとんどありません。しかし学芸担当のほかには財政・庶務担当が1名配属されているのは恵まれている方なのかもしれません。

人手も予算もない中で、民具や考古資料などと同様に寄託・寄贈される古文書、近代文書は年々



茨城大学大学院
修士課程修了。
現在は常陸大宮市
歴史民俗資料館主幹。
専門は近世医療史、
近世近現代女性史。

増えていきます。いちばんの問題は収納スペースです。増えていく一方の資史料は廃校の一部を臨時的な収納庫にするなどして対応しています。しかし、古文書を収蔵するためには温湿度、虫害管理ができる施設が必要になります。当館の古文書収蔵室はすでに満杯で、ほかに古文書を収蔵できるようなスペースがありませんでした。新たに確保した倉庫は複数の課職員が不定期に出入りし、体育祭など各種イベントの用具や式典用具、車椅子など外で使用した物もそのまま運び込まれる施設で、その一角に「同居」する形となりました。もともとは役場文書の書庫として作られたため、辛うじて木製の棚がつけられていますが、その棚は書庫として使われることはなく、今は前述のような雑多な物が置かれています。土足で入室して汚れたままの物を置いていき、常駐の管理者もいない、そのような施設の一角で古文書を保管することにはかなり無理があるとあらかじめかけていたところ、救いの手を差し伸べてくださったのが、保存科学が御専門の筑波大学の松井敏也先生とそのゼミ生の方々でした。

収蔵庫仕切りの様子→



まず、倉庫内で、古文書収蔵庫とする部分をカーテンで仕切り、関係者以外が無闇に入れないようにしました。次に収蔵庫内のホコリ・カビを除去するため塩化ベンザルコニウム(ウエットティッシュとして市販されている)で棚、床、壁などを清拭し、その後も小まめに掃除を行なうようにしました。換気扇や空調はないので開閉する窓はすべて網戸にし、入室したときはなるべく換気するようにします。古文書収蔵庫部分の出入り口には、前述のようにカーテンで仕切りをし、床にも虫が乗り越えない程度の段差を作り、そこに足ふきマットを設置、スリッパに履き替えるようにして、外から持ち込まれる害虫を減らすようにしました。また、どんな害虫がいつ発生するのか観察するため数種類の害虫トラップを設置しました。古文書は中性紙封筒および中性紙箱に入れ、収蔵庫に収納する前に必ず燻蒸処理をするようにしました。そして、収蔵庫内の温湿度を管理するデータロガーを設置し、毎日の温湿度をデータとして得られるようにした結果、カビや害虫が発生しやすいのは5月～10月であることがわかりました。書庫内と文書箱の中に防虫剤を入れ、特に湿度の高い5

月～10月の時期には除湿剤も入れ、収蔵庫内の清掃や換気を小まめに行なうようにしました。その反面、これ以外の時期はあまり手をかけなくても適切な温湿度が保てることがわかり、負担はかなり軽減されました。このように収蔵庫内の防虫・防カビを万全にしたにもかかわらず害虫が捕獲されることがあり、その原因が倉庫内の他の資材であることもわかりました。そのため仕切りの外側にも蒸散性の殺虫剤を設置しました。もともとは土足で出入りできた倉庫だったのですが、収蔵庫の仕切りカーテンの前にスリッパと足拭きマットを置いてただけで、事情を知らない職員もスリッパを履くようになるなど思わぬ効果がありました。



収蔵庫棚の様子↑

自治体の財政が厳しくなるばかりの昨今では、特に文化財行政への財政的な理解は非常に得にくいものとなっています。費用と人手の問題ばかりが障害となるように感じられてしまいますが常に問題意識を持ち、情報収集に努めることで、それらに縛られない活動をすることもできると思います。その際、いろいろな分野の方の御助言や御協力は欠くことができません。小さな保存活動ですが、貴重な歴史資料を残す一助となればいいと思います。

ある意味、面倒くさい旗本・松平縫殿頭忠香の話

西村 慎太郎

—馬場文耕『当時珍説要秘録』の世界—

当法人が 2009 年より保存・調査活動を行なっている朱文箋文書の和本群。その中に馬場文耕とうじちんせつようひろく『当時珍説要秘録』の写本を発見した(朱文箋文書 78)。現在、刊行されている『叢書江戸文庫 12 馬場文耕集』の本文との異同が見られ、たいへん興味深い。この『当時珍説要秘録』とは、18 世紀半ば、將軍・家重の頃の大名・旗本の噂話を列挙した馬場文耕の著述である。ここではひとつ面白い話を紹介したい。「松平縫殿頭器量」と題された一節である。

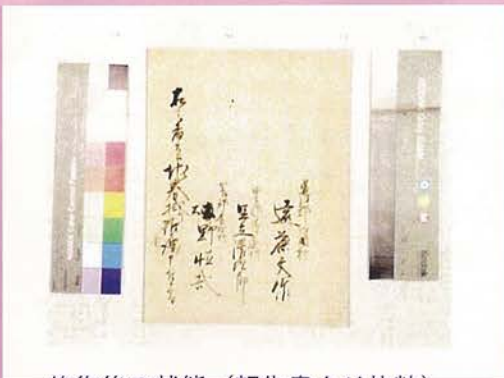
徳川將軍家の近臣で、小納戸こなんどという役職に就いていた松平縫殿頭忠香の話。普通の小納戸は將軍が寝ていると起こさないように静かに歩くが、松平縫殿頭はちょっとでも將軍の起床が遅いと、寢室にズカズカ入っていき、蒲団を引き離すというような剛毅な人物であった。ある時、松平縫殿頭は江戸城の宿直当番であったが、寝具一式を持って来ていない。江戸城の宿直をする旗本は寝具などを入れた葛籠つつらを自宅から持参することになっていたのだ。不思議に思った奥坊主(江戸城奥にて雑務をする者)が尋ねると、松平縫殿頭は毅然としてこう答えた。「三代將軍・家光公の時まで、着替えを袋に入れて持って行く程度であったが、最近では大きな葛籠を持って、甚だしい者



は酒宴の道具まで持つ者がいる。帯や刀を緩めて、何が將軍の番だと言うのだ。拙者は寝るために御城に来ているのではない。」この一徹たる発言に多くの人が感銘した、という話である。

しかし、本当に多くの人が感銘しただろうか。「面倒くさい奴が来たな」と思い、こっそり同輩の旗本たちで、杯を片手に悪口をついている光景が浮かんでしまう。

南伊豆プロジェクト活動報告 —修復状況—



修復後の状態 (報告書より抜粋)

昨年度も南伊豆町渡辺亮家文書のうち、劣化の甚だしい 31 点を東洋美術学校の教材として提供致し、29 点の修復が完了致しました。それらの文書は報告書とともに3月3日に返却されて、御所蔵者へ返却致しました。御所蔵の古文書を快く御貸し下さった渡辺亮様、学生を指導頂いた榎筒節男先生、東洋美術学校の小野慎之介先生・伊藤久実先生、そして、丁寧に修復下さった学生の皆さんには心から御礼申し上げます。

会員募集

NPO法人歴史資料継承機構では一緒に取り組んで頂く会員の方を募集致しております。参加資格は「歴史資料」を通じて地域貢献をしていきたいと考えている方でしたら、どなたでも構いません。

ご興味のある方は奥付までお問い合わせ下さい。資料をお送り致します。

また、入会したい方は

①郵便番号、②住所、③氏名、④電話番号を明記の上、メール・郵便で御連絡下さい。折り返し資料と会費納入の御案内をお送り致します。

当法人では、皆様からの寄付を募集しております。ご協力をお願いいたします。

❖ 会員の種別・年会費

- (1) 正会員 個人3,000円
団体30,000円
- (2) 賛助会員 個人1口以上
(1口 1,000円)
団体1口以上
(1口10,000円)

❖ 会員特典

- (1) 会誌・会報の頒布
- (2) 報告会・講座・講習会などのイベントの案内頒布
- (3) 報告会・講座・講習会などのイベントの参加費割引
- (4) 諸プロジェクトへの参加



活動報告

2009年11月27日～30日

南伊豆町渡辺亮家文書調査を実施

11月28日

「第2回南伊豆を知らう会」を開催

2010年1月23日

第三次朱文筵文書調査を実施

2月11日

第一次我孫子市安島昌平家文書調査を実施

3月3日

東洋美術学校において渡辺亮家文書修復に関する打合せ

4月18日

第二次我孫子市安島昌平家文書調査を実施

4月23日

東洋美術学校において朱文筵文書修復に関する打合せ

4月29日～5月1日

南伊豆町渡辺亮家文書調査を実施

5月14日

東洋美術学校において朱文筵文書修復に関する打合せ

5月21日

東洋美術学校において当法人の活動を講義(3・4年生)

6月5日

2010年度総会を学習院大学にて開催

編集後記

今号は高村さんに地方の博物館の現状について寄稿いただきました。今後も資料の保存や調査、活用について取り上げていきたいと考えておりますので、ご意見などございましたら、下記までは是非ご連絡ください。

武子 裕美

NPO法人 歴史資料継承機構

New s Letter

じゃんぴん Vol.8

●発行●

〒193-0063

東京都青梅市梅郷3-863-2西村方

NPO法人 歴史資料継承機構

Email: rekishishiryokeisyo@yahoo.co.jp

URL: <http://rekishishiryoyo.com/>

●発行者●

NPO法人 歴史資料継承機構

代表理事 西村 慎太郎

編集: 武子 裕美

イラスト: 朝倉 麻子